

離島生活にわくわく

県体験事業で小学生出発

沖縄本島の子どもたちが
離島で民泊し、住民らと交
流する県の「離島体験学習
促進事業」の出発式が26
日、那覇市の城東小学校な
どであった。同事業は、本



離島体験学習促進事業の出発式で保護者らに見送られて、写真撮影する児童ら=26日、那覇市立城東小学校

島の子どもたちに離島の問題解決に向けた意識を芽生えさせ、地域の活性化も狙った初の試み。
城東小学校で、県企画部の小橋川健二地域・離島統括監は「沖縄本島も離島の一つ。沖縄県を理解するということは離島を理解するということ。離島の魅力を理解してほしい」などあいさつ。
児童を代表し、5年生の向井大瑛君が「皆で楽しい思い出をつくらう」と呼び掛け、上運天空君は「周りの人々への感謝の気持ちを持って楽しんでいきます」と

話した。
今回、城東小学校から伊是名島と伊江島へ、泊小学校からは久米島と宮古島に、壺屋小学校から西表島へ、高学年の児童がそれぞれ派遣される。2泊3日の日程で、離島の住民や小学生との交流、体験学習、民泊などを計画しており、全額を公費で負担する。
県は今回、予算や日程の都合から、那覇市内の小学生を対象にしたが、来年度は規模を大幅に拡大し、約20の離島に本島全域から約700人を派遣する計画を立てている。